

(別紙5)

補助事業番号 28-2-104
補助事業名 平成28年度 福祉事業を行っている法人格を有さない団体に対して支援
を行うことを本来の目的として活動する 補助事業
補助事業者名 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当財団は1970年障害児の父母団体の全国組織16団体が協力して設立した社会福祉法人で、障害児に対する福祉、医療、療育訓練、各種相談事業を行う外、障害児の父母団体との協力の下、障害を持つ者と健常者との共生社会を目指して幅広い広報・啓発活動の実施を目的としている。なお、定款では以下のように標榜している。「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されることを目的とする。

(2) 実施内容

[\(http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/\)](http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/)

障害児に対する保健、福祉分野の公的サービスは、近年格段に充実されてきたが、自閉症やアスペルガー症候群を含むいわゆる発達障害児の的確な診断、療育上の相談、早期に発見して早期に支援を行う発達障害児やその家族への支援の仕組みはまだ緒に就いたばかりであり、公的な支援体制が整っていない。また、障害児を養育する両親(ひとり親の場合も少なくない)や兄弟などの家族も、障害児の生活支援に大きな役割を果たしているが、これらの家族に対する支援、家族同士の交流や助け合い・励ましあいの諸活動に対する公的支援は極めて限られている。このような中、各種親の会や各PTAが実施している諸活動については、JKAの補助事業が多大な役割を果たしてきた。

本事業は、公的支援が乏しい分野に係る諸事業について、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団並びに関連団体のうち法人格を有さない障害児の親の会及び特別支援教育にかかるPTA3団体が実施する事業である。

各団体が行っている内容は以下のとおりである。

1. 全国心身障害児福祉財団

(1) 発達障害幼児に対する早期支援事業

発達障害幼児の早期発見・支援を行うため、専門家チームによる訪問支援活動を実施するとともに、保育士・教諭に対して専門性向上のための研修会を2地域(島根県・福岡県)で実施するとともに発達障害に関わる「子育て支援情報誌」を作成

(別紙5)

し、関係機関に無料配布した。

園内研修会



訪問支援活動



子育て支援情報誌



(2) 自閉症スペクトラム障害児に対する療育指導と親・関係者の支援

対象児の年齢・発達段階・特性を考慮したプログラムを作成し年間34回(平均3回/月)の指導日を3期に分け、個別および小集団で目標を立てて実施。年度末に発達検査を実施し親への面談やアンケートを実施した。



(3) ダウン症児に対する療育訓練

対象児の成長に合わせたプログラムを作成し、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・臨床心理士による専門家により、療育訓練を行った。

また、家族に対しても対象児の療育訓練への参加を行いダウン症児の生活サポートを行った。

(別紙5)

(4) SNSを利用した父母団体の情報・相談システムの構築

父母団体の中でSNSを活用している団体の関係者・ITに精通する大学関係者・IT関係の仕事に従事している方からなる検討委員会を発足。父母団体におけるSNSの活用を検討し、昨年度(平成27年度)より試験運用している閉鎖型SNSの利用方法及び障害別の便利なアプリ等の講習会を実施した。

検討委員会



講習会



2. 全国難聴児を持つ親の会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

代表者研修会や各地で開催されたキャンプや講演会の報告、作文コンクールなどで受賞した難聴児の作品等の難聴児にかかわる情報を、指導誌を通じ、難聴児を持つ保護者・難聴児教育に携わる教育者・医療関係・諸官庁に対し提供した。



(2) 心身障害児対策の無料検診

全国の難聴児の家族のための療育相談活動を相談員(難聴児を育てた親であり民生委員・難聴学級教諭)が2ヶ所の会場にて実施した。

(3) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(一泊二日集団キャンプ)

難聴児教育に携わる専門家や指導員及び聴覚障害当事者による指導により同じ障害を持つ子どもたちの集団生活の経験や社会性の向上を図るため一泊二日の集団キャンプを奈良県・香川県・新潟県の3カ所で実施した。難聴児と保護者は別々のプログラムを組み、難聴児は集団生活の経験。保護者は難聴児を持つ保護者同士の意見交換をし、聴覚に障害がある児童の育て等、先輩保護者からの意見を聞き知識を得ることができた。また、難聴スタッフからの補聴補助具等の意見を聞き、今後の生

(別紙5)

活環境についての情報提供の場も与えた。



(4) 難聴児の親のための研修会

難聴児を持つ親を対象とし、聴覚障害に関わる専門家や成人した聴覚障害者当事者・聴覚障害者を育てた親による聴覚障害の正しい知識・理解を習得させ生活環境を整えるための研修会を全国4カ所(兵庫2カ所・三重県・愛知県)で実施した。



3. 全国聾学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

ろう学校に通う聴覚障害児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を3回発行して配布した。



(2) 心身障害児対策の無料検診(治療教育相談)

ろうあ児とその家族に対する療育指導を積極的に奨めるために治療教育相談を5回(北海道・東京都・山梨県・愛知県・宮崎県)実施した。

(別紙5)



(3) 聴覚障害生徒スポーツ振興

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、陸上競技大会10月7日～9日富山県総合運動公園陸上競技場(富山県)、卓球大会10月28日～30日松江市総合体育館(島根県)の日程で実施した。

陸上競技大会



卓球大会



4. 全国盲学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

年1回行われる年度総会・理事会・研修会報告、全国盲学校幼児児童生徒の在籍状況数、あん摩マッサージ指圧師・はり師・灸師国家試験合否結果、各地区PTA活動報告、野球大会・弁論大会の結果報告、卒業生の活躍、国への要望事項や全国特別支援教育推進連盟の活動報告などを掲載した指導誌を年2回発行し配布した。

また、1回目発行時には盲者用に指導誌をCD化した物も配布した。



(2) 視覚障害生徒スポーツ振興

8月23日～25日に北海道石狩市のはまなす国体記念ソフトボール場において全国8地区および開催地区から選ばれた8チームにより2日間にわたり開催された。

(別紙5)



5. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱特別支援学校に通う病弱虚弱児とその家族に対して国や地域における特別支援教育の動きや課題、各地区の保護者の活動等を内容とした指導誌を発行して配布した。



(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(一泊二日集団キャンプ)

病弱児とその家族に対し、病院とは違う環境の中での集団生活をし、将来の生活に役立つ実践的なスキル獲得のために一泊二日の集団キャンプを4回(山梨県2回・愛知県・神奈川県)実施した。



(3) 社会復帰のための社会適応講座の開催

病弱特別支援学校児童生徒・OB・OG及び当該者の保護者・教師を対象とし校外学習・制作活動を中心に4回(東京都1件・千葉県3)実施した。

2 予想される事業実施効果

1. 全国心身障害児福祉財団

(1) 発達障害幼児に対する早期支援事業

専門指導員から助言をいただくことで、発達障害児の特性理解が深まり、教職員の専門性が向上され、それにより、園全体で発達障害児の早期発見が可能となり、教職員の共通理解のもと園内での支援体制が整備される。地域の療育機関、学校、行政関係者が専門指導員としてチームを組むことにより、地域内での連携が密に取れ、将来的には就学への移行支援に繋がることが期待される。

また、子育て支援情報誌を全国の障害児保育実施施設等に配布することにより、情報誌で紹介した実践事例を各園でも実施されることが期待される。

(2) 自閉症スペクトラム障害児に対する療育指導と親・関係者の支援

子どもの発達・特性をきめ細かく把握し、発達段階に合わせた適切な対応・指導計画を作成することで、自閉症スペクトラム児の苦手な社会性の獲得を進めていくことが期待される。

また、家庭や関係機関への報告を常にすることにより子どもの理解・対応についての参考となり、子どもと親・関係機関双方にプラスに働く事が期待される。

(3) ダウン症児に対する療育訓練

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士等の専門的な指導員による適切な指導助言を行ったことにより、保育士から保護者へ、そして園全体でダウン症児に対する支援を組織的にできると予想され、今後のこどもの行動の共通理解と一貫性のある支援へと結びつくことが期待される。

(4) SNSを利用した父母団体の情報・相談システムの構築

同じ障害を持った本人や家族を含めた関係者が、身の回りにいる特定の関係者とは普段相談できない事柄等を閉鎖型SNSに参加している数多くの関係者と意見交換することにより、本人及び関係者のお互いの問題を把握、時には助言しお互いの環境を整えられることが期待される。

2. 全国難聴児を持つ親の会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

難聴児及び家族に対し、聴覚障害に関する情報や、地域での活動を掲載した指導誌(紙)を発行することで、日頃得られない情報や、地域活動に参加できなかった方々が情報を得ることができ、難聴児の生活環境充実に影響を与えることが予想される。

(2) 心身障害児対策の無料検診

日頃、難聴児を抱えて子育て等で悩んでいる家族が、無料検診事業に参加し、難聴に関しての知識をもった専門家や、子育てを終えた親へ相談することにより、

(別紙5)

心の安定を与え難聴児に対する教育や発達に良い影響を与えることが期待される。

(3) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(一泊二日集団キャンプ)

家族で参加する中で聴覚に障害のない兄弟も参加しており、同じ障害を持った者同士のみならず、健常児が2日間という集団生活の中で過ごすことでお互いの存在を認め合い大きく成長する場になっている。その子どもたちが成長し大人になった時に障害者差別が無いより良い社会づくりが展開されることが期待される。

(4) 難聴児の親のための研修会

保護者のみならず、保護者を通じて学校の教員にも参加を呼び掛けたことにより、難聴児に対する共通した考え方で取り組められ、今後の難聴児の成長に大きな変化が現れる事が期待される。

3. 全国聾学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

全国聾学校PTA連合会が開催している研修会の模様や、毎年開催される全国陸上・卓球競技大会での報告等、紙ベースの発信で会員や関係者が共に得ることにより話題となっていくことが期待される。

(2) 心身障害児対策の無料検診(治療教育相談)

ろうあ児とその家族・関係者が参加し、講演で今後の方向性を見出し、研究協議会では日常生活での家庭指導への具体的なヒントを得て各地域に戻り地域PTAで活用することにより聴覚障害児の発達に良い影響をもたらすと予想される。

(3) 聴覚障害生徒スポーツ振興

スポーツに対する関心・興味の高まりは、聾学校も例外ではなく生徒はもちろん保護者にも及んでいる。学校における指導も先輩が残した記録を目標に生徒の潜在能力の開発や、新たな能力形成を図るなどし、聴覚障害生徒の生活スタイルに大きなプラスにつながると期待される。

4. 全国盲学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

盲学校へ通う盲児とその家族や視覚障害関係団体に指導誌を配布することにより、視覚障害児に関する資料としての活用、盲学校の活動等の情報収集等、視覚障害に関する情報が共有され、視覚障害への理解啓発が広がり、関係団体や社会との連携が進むことが予想される。

(3) 視覚障害生徒スポーツ振興

(別紙5)

野球大会を通して生徒の積極性や協調精神が培われ、視覚障害生徒の選手同士はもとよりボランティア・開催地域の人との交流経験をすることや、盲学校生徒の活動を社会にアピールすることで、視覚障害に対する社会の理解啓発が深まることが予想される。また、野球大会においては今年度で補助金による活動を終了としたが、参加した生徒達からは有志が集まり行っていきたいとの意見もあることからこれからの活動も期待される。

5. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱特別支援学校に在籍する児童の保護者・病弱教育関係者が指導誌(紙)を通じ今日的な教育問題や国の動向等を明確にすることにより、視野を広め病弱教育の最新情報に関心を高めるなど、子どもたちが置かれている現状を理解することが期待される。

また、各学校・地域の取り組みを紹介することにより、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会と、その関係者との連携強化が図られることが予想される。

(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(一泊二日集団キャンプ)

医療の管理下におかれている病弱児は様々な生活規制を受けており、集団活動や経験が不足であり、本事業を行うことにより普段病院ではできない活動や家族などとの行動を共にすることで、心理的な安定・積極性・社会性の涵養、セルフケアへの向上を図ることが期待できる。

(3) 社会復帰のための社会適応講座の開催

進学に関する適応講座はシリーズ化し、病弱児に対する入学後のミスマッチを防ぎスムーズなキャンパスライフの実現が期待できる。就労に関する適応講座は事業に関わる人からの就活・就職につながることを予想される。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

[\(http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/\)](http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/)

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団

子育て支援情報誌No.16	A4判	24頁	4,000部
子育て支援情報誌No.17	A4判	24頁	4,000部
子育て支援情報誌No.18	A4判	24頁	4,000部

イ. 全国難聴児を持つ親の会

べるNo.171	B5判	28頁	4,000部
べるNo.172	B5判	24頁	4,000部

(別紙5)

べるNo.173 B5判 32頁 4,000部

ウ. 全国聾学校PTA連合会

会報No.225 B5判 10頁 8,500部

会報No.226 B5判 10頁 8,500部

会報No.227 B5判 10頁 8,500部

道標No.42 B5判 50頁 8,500部

全国聾学校陸上競技大会要綱 A4判 138頁 1,000部

全国聾学校陸上競技大会ポスター B2判 300枚

全国聾学校卓球大会要綱 A4判 76頁 700部

全国聾学校卓球大会ポスター B2判 400枚

エ. 全国盲学校PTA連合会

手をつなごうNo.50 A4判 24頁 4,000部

手をつなごうNo.51 A4判 12頁 4,000部

全国盲学校野球大会要綱 A4判 56頁 750部

全国盲学校野球大会ポスター A1判 100枚

全国盲学校野球大会ポスター A2判 250枚

オ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

会報No.38 A4判 16頁 3,500部

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団
(ゼンコクシンシンショウガイジフクシザイダン)

住 所： 〒170-0005
東京都豊島区南大塚3丁目43-11

代 表 者： 理事長 伍藤 忠春(ゴトウ タダハル)

担 当 部 署： 事務局(ジムキョク)

担 当 者 名： 事務局次長 町野 忠史(マチノ タダシ)

電 話 番 号： 03-5927-1284

F A X： 03-5927-1281

E - m a i l： gyomubu@shougaiji-zaidan.or.jp

U R L： <http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/>